

エディンバラ・フェスティバル・フリンジ 2013 「DENSETSU~Legend~」公演ツアー報告

■ 1日目（8月22日）

午前8時20分。出演者43名、同行者（ご家族やご親友など）11名、梁河先生、本部スタッフ（高石、辻）の57名が関西国際空港集合。午前10時20分KLオランダ航空で出発。アムステルダムで乗り換え、エディンバラ空港へ。所要時間約14時間40分。エディンバラ空港で秋山先生、ロシアから来られた山口先生、天空と合流！ 旅行代理店さん手配のバスに乗り込みヒルトン・エディンバラ・エアポート・ホテルへ。チェックイン後、解散。ホテルで休む人、早速市街へ行く人と様々でした。



エディンバラ空港に到着



ヒルトン・エディンバラ・エアポート・ホテル

■ 2日目（8月23日）

ただいま朝9時。St Anne's Parish Churchでお稽古です。この教会で3時間ほどお稽古後、手作りのお弁当（巻き寿司）で力をつけ、市内にあるデイサービスセンターPeace&peopleへ。発起塾は海外公演時、必ずデイサービスセンターや病院などでのボランティア公演を行います。劇場へ足を運ぶことのできない方たちに元気を届けたいという気持ちはどこへいっても忘れることなく、実行しています。今日のデイサービスセンターは約12名の入居者さんとスタッフ。それに対し出演者は35名。演目は劇場公演の演目を30分ほどに短縮したもの。入居者さんは現地の方なので、セリフはもちろん英語。シーンが飛んだり、セリフが飛んだり、とハプニングはありましたが、公演後、「楽しかった」「来年もきて欲しい」という言葉をいただきました。おみやげで持参した手ぬぐいも大喜びされました。ここで解散後、希望者のみで映画「ダ・ヴィンチ・コード」で有名になった「ロスリンチャペル」へバスに揺られいきました。



St Anne's Parish Church



慰問公演のカーテンコール



デイサービスセンターのみなさん



ロスリンチャペル

■ 3日目（8月24日）

今日の集合時間は劇場（C-venues）に7時。ホテルで朝食ボックス（お弁当）を作っていたが、朝6時にホテル出発しました。劇場で2名合流し、全員集合となりました。持ち時間は4時間。全員はじめての劇場なので、袖のチェック、音響照明のチェックをしている間に1時間。急いで、Kチームの場あたり、Aチームのグネプロをしたらタイムアウト。大丈夫なのか????



劇場での稽古



客席です。立派

ちょっと休憩してから、今後発起塾の「稽古場」と言われるスコットランドミュージアム前で街頭パフォーマンスのお稽古。ミュージアム前といっても外です。お稽古していたら人が集まってきます。すかさずビールを渡す、メンバー。さすが。現在のチケット販売数は各公演10枚ほど。座席は130席。このビール配りが動員を左右するというのでビール配りにも力が入ります。英語を話せる人も話せない人も公演の魅力を話しながらせっせとビール配りしていました。もちろん同行者も、です。



稽古場での練習に集まってきた人たち



稽古場ことスコットランドミュージアム前

そしていよいよ街頭パフォーマンス。持ち時間は20分。等間隔に並べられたブースの中でのパフォーマンスなので、左隣りでは若いグループが歌でアピールしたり、右隣ではギターを演奏してたり、大道芸やってたり、道行く人の視線をクギ付けにするのはなかなか難しい。そこで最初に登場したのが、「腰元ガールズ」による「会いたかった」。かわいっ。だんだん人が集まり忍者登場で、人だかり・・・忍者人気すごい！
続いてC-venusのBARで公演。



C-venusのBAR公演

■4日目（8月25日）

今日はチームAが担当（チームKは自由行動。ピラ配りをお手伝いしてくれる人、観光にでかける人、様々でした）。「稽古場」に10時集合し、お稽古後、昨日と同じ場所（Lower Stage）でパフォーマンス。昨日同様、腰元ダンサーズ、忍者でたくさんの人だかりでした。たくさんきてくれるかな？



チームAの街頭パフォーマンス



昼食は日本食レストランで・・・



フリンジ版-発起塾Tシャツ

そしてBAR公演後、いよいよ劇場へ。15時35分に劇場へ入り、開演までは30分。いそいで準備します。客入れは5分。袖から見てると、まず背の高い外人さんが一番前の真ん中へ・・・ええっ。それから続々とお客様が入り、席は満席に。緊張感がまし

ます。さ〜気合いをいれてスタートしましょ。



群読「生きる」



シンデレラはエディンバラ在住の台湾の女性

さてさて・・・公演は・・・大成功！！

公演後、涙をながしながら黒子（高石先生）に抱きついていましたお客様もいました。

■5日目（8月26日）

今日はチームKが担当。今日も「稽古場」に集合後、昨日よりちょっと大きいステージ（Mercat Stage）でパフォーマンス。持ち時間が40分なので、パフォーマンス後は撮影会としました。花魁や腰元のかつらをお客様にかぶっていただき撮影したり、忍者の刀をお客様にかして撮影したり、、、みなさん大変喜んでいました。



花魁と腰元ダンス



撮影大会 パート1



撮影大会 パート2



撮影大会をみつめるステージ担当と山口先生

この後、BAR公演があったのですが、ちょっとお疲れ気味のようなので、休憩時間としました。そして劇場公演へ。今日も昨日に続き、満席でした。



発起塾版「白鳥の湖」



「花魁ダンス」



シンデレラ役は 80 歳の方



終わった後の嬉しそうな笑顔・・・です

公演を見ていただいた方が、フリンジのHPに書き込んでくれた感想です。

I have to be very clear to the people who is choosing this venue, this is not for the faint hearted or who expects sort after performance. "Densetsu" is put on by Japanese over 50's performing group. The word "chaos" describe the experience of watching over 50's members sing and dance in front of you. Their move is not fluid and some actors cannot remember the lines or their choreographies, over looking fellow performer with what to do next or relies on to the "helper" character who dressed in all black to blend into the stage background who holds script and give support when actor gets in pickles on stage. Their amateurish miss happening on stage and confusion is what made it so fun to watch and my eyes were wet with tears, don't know if that was because it was tears of joy or pain. They came all the way to Edinburgh to put on their show for only two days in Fringe festival. If Fringe is anyone to enjoy, they definite deserves the opportunity to put their show on stage. At the end of today's show, I noticed some actors are welling up with tears. I cannot but wish when I get to their age, I would like to enjoy my life as much as they have done today. Feel charitable when you are going to watch their last performance tomorrow, be generous of your criticism, after all they are just have great fun, and so do you too. Brave and courageous actors of "Hokkijuku", well done.

私はこの開催地に来る人達にはっきりと言っておきたいのですが、ここはおそろおそろ演じるところでもないし、演じた後びくびくしたりするところではありません。"Densetsu"(伝説)は、50歳以上の日本人の劇団のみなさんによって演じられます。50歳以上の劇団員の人達があなたの目の前で、歌ったり踊ったりするのは"chaos"(カオス・・・混沌としたという意味です)という表現がぴったりするかもしれません。

彼らの動きは、決して流暢とは言えず、セリフを忘れたり、ふりつけを間違ったりする人たちも何人かいますが、全員の演技やセリフを言うのを助ける役割を担うヘルパー（黒子のこと）が、黒装束に身を包んで舞台上に溶け込むように、背後で台本を持って立っていて役者がセリフを忘れたりするとサポートしています。彼らの素人っぽいミスやステージ上でのハプニングは見ていて、とってもおかしくて、ふと気がつくとい私は涙を流していました。おかしくて笑いすぎた涙か、ちょっとほろっときて流した涙か、よくわかりませんが・・・彼らはたった2日だけ Fringe Festival で公演するために、はるばる遠方からエジンバラに来てくれました。Fringe を楽しみたいという人は、ぜひ彼らのショーを見てください。今日のショーの終わりに、何人かの役者の人達が目にいっぱい涙をためていることに気が付きました。私は、私が彼らの年齢になったとき彼らが、今日やったように、人生を楽しみたいと思わずにはいられません。明日彼らの最後の公演を見る時は、寛大な気持ちになって、やさしさを感じてください。彼らは、演じることを心から楽しんでいて、あなたたちも、きっと、思いっきり楽しくなります。勇敢で度胸のある「発起塾」のみなさん、お見事!!!（素晴らしい出来でした!）

■6日目（8月27日）

今日は終日自由行動。ほとんどの方が、ツアーバスでスコッチウィスキー蒸留所やスターリング城へ観光へでかけていました。

夕方、交流会。。Murrayfield Parish Church で、エジンバラ在住の方が地元の味を作ってくださいました。料理を味わった後は、スコットランドダンスのサークルの方々による、スコットランドダンスの紹介と、デモンストレーション、ワークショップが行われました。かなり激しいダンスもあり、給水所に人だかりができるほどでしたが、エジンバラ最後の夜を皆楽しく過ごしました。参加者の中には「一番楽しかった・・・」とのこと。おいっ、公演は?!



料理を作ってくれたパクさん夫婦



スコットランドダンスは激しい



梁河先生はさすが飲みこみはやっ



一緒にダンシング



向かって左が今回大変お世話になった別役あつこさん。本当にありがとうございます。また真ん中がビデオ撮影してくれたジョッキーさん、右が照明をお願いした石川さん。



最後に記念撮影。全員でないのが・・・残念ですが、みなさんお疲れさまでした。そして次の日、エディンバラ空港をとび立ち、無事日本に帰国しました。

今回発起塾ツアー初参加で初海外旅行の塾生さんの感想です。

「初めて1週間もの海外旅行で、不安もありましたが、意外にも、すごく楽しめました。元気でした。他校の塾生さん達とも交流できて刺激を受けました。でも、お米が食べられないのは、1週間が限度かな？とも思います。自分に自慢できる旅になりました！！本当に有難うございました！！」。お疲れさまでした。

今回のツアーでは、上記のあつこさん、ジョッキーさん、石川さんの他に、近畿日本ツアーリストさん、英訳をしていただいた吉木万代美さん、「白鳥の湖」のナレーションを担当してくれたニランジャン先生（アムピカー先生のご主人）、歌と発音の指導をしていただいたアムピカー先生、音響の谷口大輔さん、はるばるロシアから来てくれた山口先生、自腹できてくれた梁河先生、ダンスの振付をしていただいた森脇先生などたくさんの方に支えられました。ありがとうございました。

来年はどこに行こうかな？台湾かな？と塾長はいつてましたよ。

（文責：天空魔王。）